

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆうわ・あいき		
○保護者評価実施期間	令和6年9月20日		～ 令和6年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和6年9月20日		～ 令和6年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年11月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの発達状態に応じた個別活動と集団活動が出来る。	・個々のニーズに合わせた個別療育の実施を軸に、日常動作訓練、創作的活動、機能訓練、集団生活適応訓練を日々の活動に取り入れている。 ・合気スキルを通して、ソーシャルスキルや即時反応を高める指導を行っている。聴覚や集中力、自発性、表現力などへの働きかけを行っている	・個別療育を定期的に行った後に、保護者様に分かりやすくフィードバックできるツールの活用を検討する。 ・合気スキルで培ったリズム感覚や表現力等を披露する機会を設ける。
2	・季節毎のプログラムや行事がある。 ・大きな人工芝と砂場があり、また校区小学校のプールの午後開放がある。 ・夏季には毎日水遊びやプール遊びができる。夏季以外は歩行訓練や屋外活動がある。	・水の楽しさだけではなく、危険も学び、水遊びのルールを理解できるよう指導する。 ・指導員や友だちと一緒に、水に親しみながら遊べるように環境を整える。 ・個別療育前に歩行訓練を実施し、脳の活性化と集中力アップに取り組んでいる。	・水に慣れる、顔つけができる、呼吸動作（鼻から息を吐き口から息を吸う）、潜り、浮き身などの年齢に合わせた基本動作が習得できるように指導の取組みを行う。 ・歩行訓練だけでなく、運動療育システムを活用し、身体の基礎づくりを行い、併せて片足立ちなどの機能評価のフィードバックを行う。
3	・子どもの特性や性格を理解して接することができ、支援体制が手厚い。	・担当職員を軸に、各職員が個々に関わりを持ち、療育に携わっている。個々の療育内容を職員間で共有し、スモールステップを全員で分かち合うようにしている。 ・日々の活動の様子を書面だけでなく、画像や動画にて見ていただけるよう意識して記録をしている。	・子育てサポート加算や家族支援加算を定期的に活用して保護者様への相談援助やフィードバックを大切にしている。 ・今後も些細な内容でも話し合っって情報を共有していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・専門的支援の定期化。	・言語聴覚士による支援のニーズが高いが、定期的な支援に至っていない。	・専門人材の配置と「専門的支援実施加算」を検討している。
2	・保護者に非常時対応時マニュアルや避難訓練実施が知られていない。	・避難訓練等実施した日は連絡ノートに記載している。予定表にも記載しているが当日来所しない子どももいる。	・実施した日は送迎時に口頭でお知らせする。
3	・児童発達支援の利用者数が少なく、同世代の友達との関りが少ない。	・小学生以上の利用者で定員がいっぱいになっている。	・こども園との交流や同世代の子どもと関わる機会を設ける。